

令和7年度第1回松江市総合教育会議

日時：令和7年10月9日（木）9：30～

場所：松江市役所 第4別館3階 教育委員会室

出席者：松江市長 上定昭仁

松江市教育長 青木佳子

松江市教育委員 塩川寛、大谷みどり、金津式彦、原田順子

○川上副教育長

おはようございます。皆様お揃いのお集まりですので、ただいまより始めさせていただきます。

本日はご多用のところ、令和7年度第1回松江市総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます副教育長の川上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、開会にあたりまして、上定市長よりご挨拶をいただきます。市長、モニター前にご移動をお願いいたします。

○上定市長

おはようございます。令和7年度第1回の総合教育会議に、教育委員のみなさんをはじめとして、みなさんご出席いただきましてありがとうございます。

いきなりですけれども、『ばけばけ』が始まりました。先週の月曜日から始まっております。実は事前に、松江市、特に脚本だとか、ロケ地は何となく分かるのですけれども、どういうストーリーなのかは聞いておりませんので、私も見ながら「へえ」と思いながらやっております。ちょっとある意味驚きだったのは、こんなにユーモラスな、クスッと笑えるような感じなんだというのが1つと、それから、藤木さんという方が脚本を書かれているのですけれども、お母さんが松江のご出身の方でいらっしゃるって、ご自身も松江に子どものころからいらっしゃるらしいんですね。なので、描写も松江城だとか宍道湖だとかシジミだとか、我々にとってみると地元のPRになるようなことをしっかりやっただけしているというのは非常にありがたいですし、今日は8時15分のあと、かまいたちの山内さんがお出になって、そのまま松江のPR

などもしていらっしゃいました。

ちなみに、私、朝ちょっと早めに出勤して、8時から8時15分に見た上で、12時45分から1時まで復習をしております、2回見るのですが、ちょっと「あっ」と思ったのは、昨日の回をご覧にならなければあれなのですけれども、第1回目のお見合いがありまして、トキさんが残念ながら今回はちょっと破談になったのですけれども、それを家族から聞くシーンがありましたよね。あのシーンは、最初からもう破談になったことが分かっているけれども、みんなは明るく話をされて、最後、「じゃあ結果を伝えます。ダメでした」と言われて「えっ」となるんです。

2回目を見ると、これはみんな破談になることを知っているのに、こんなふうに明るく喋っているんだというように見えるんですね。だから、ものの見方というのは、やはり多面的にならなければいけないなということを思ったりしております。

この『ばけばけ』を非常に大きな機会に捉えて、1つは、たくさんの観光客の方に来ていただきたいと思います。もう1つは、やはりここに住んでいる松江市民が、「やっぱりうちはすごいところなんだ」、「全国や世界から注目を浴びる、誇れる場所なんだ」ということを分かってもらった上で、市民が愛着や誇りを育むきっかけにするというのが、私、どちらかという観光目的は付随的なもので、市民が誇れるまちであるから色々な発展があるものだというように思っております。

1つだけ脱線してお話しすると、そういった意味では、私は完全に子どものころからそれができておりませんで、前にもちょっとだけお話ししたことがあるかもしれませんが、全く松江のことを誇りにも思っておりませんでしたし、こんなところでやるものかと思っておりましたし、都会に行くことをインセンティブに机に向かっておりました。なので、そういう意味では、全く私が今言っていることは反面教師的なことなのです。なので、教育のせいにするわけにはいかないですが、やはり子どもたちが松江を何たるかを知る機会、そして、松江に愛着・誇りを育む機会というのを『ばけばけ』のみならず能動的につくっていきたいというように思っております、これも繰り返しお話ししていて恐縮なのですが、昨日も宍道湖で小学生がシジミ採りをやっておりました。小学生は手上げ方式ですけれども、3年生がシジミ採りをできます。小学校6年生は、松江城授業プロジェクトというのがあって、松江城の裏の裏まで、そして松江歴史館も行きます。

そして今年の1月から、前回の2月の総合教育会議でお話ししたかもしれませんが、

『MATSUE WAKU WORK』という、いわゆる就業体験ができるフェスティバル、松江版キッザニアですけれども、そういうものを商工会議所や商工会などにも協力を得て、松江の企業 61 社に出させていただいて、ブース出展をくにびきメッセにして、1,807 人の中学 2 年生に体験をしてもらいました。

そのあととったアンケートの結果として、もちろん「楽しかった」、「自分の将来の展望が開けた」とか色々あるのですけれども、その中で「自分のやりたい仕事が見つかった」と書いている子がいるんです。なので、松江にこんな魅力的な仕事があって、それをやりたいと思えるということを初めて気付かされた。ちょうど中学 2 年生というのは、やはり将来のことを展望する時期なので、そこで松江の何たるかというのを分かってもらおうというのはすごく意義があることだというように思います。

今後ふるさと教育、また、情操的なものも含めて力を入れていきたいというように思っています。

今日は、不登校支援で『ボタンねっと』というのを令和 6 年度から開始しております。これについて、私も実は現場を見たことがなかったので、今日初めて出演もさせていただけるということで喜んでおります。

不登校支援の形として、どういったものが良いのかというのは、みなさんと一緒にぜひ議論していきたいと思っております。ちょっとだけ難しいことを申し上げますけれども、昔は周りに不登校があまりいなかった気がするんです。いなかった原因というか、いなかった理由としては、無理やり連れて来られていたんです、首根っこをつかまれて。「学校に行きたくない」と私も思ったことがあります。小学校 2 年生のときにマイコプラズマ肺炎になりまして、2 週間休まなければいけなくなって、そのあと行きたくなくなりました。

実際、「お前は何を言っているんだ」と連れて来られて、嫌々ながら学校に行って、友だちと話しているうちに、それはそれで別に普通に心地良いなというようになるケースというのが昔はあったと思うんです。でも、今は選択肢が無数にありますよね。多様性という名のもとに、みんな強制的にはなかなか周りも動けないので、結果として無理やり連れて行って馴染んだということ自体が起こりにくくなっていると思います。

それとともに、話が大幅飛躍しますが、松江市役所でも当然長時間労働規制があります。それを守って健康を維持していくことが持続可能な行政のあり方である。もち

ろんなんです。ただ、我々のころは、ちょっと美化して恐縮なのですが、大変な、徹夜しなくてはいけないようなこともありました。「もう嫌だな」と思いながらやりました。でも、それを乗り越えたら「やって良かったな」と。例えば「お客さんを満足させられたな」という成功体験というのを手にすることができて、あるいは、「そうか、あのときに比べたら今はまだまだ」とか、上司から何か「お前はダメだ」と言われたときに、「頑張ってるぞ」という反骨精神だとか、そういうのが良いか悪いかは別として、昔はそういう成長の仕方というのがあり得たと思うんですね。それがちょっと言葉だけをとると、あまり良いことではないですけども、易きに流れているというところをどう捉えるかというのはすごく難しい問題だと思います。

それはある種軋轢がなかったり、フラストレーションが溜まらなかったり、その場では当然心身的な負担も軽減されるので良いことだというように捉えられると思いますし、では、将来的に考えたときにどうなのかというのは、その積み重ねなので、評価が非常に難しいと思うのですが、ちょっと不登校支援というのを今日はテーマにさせていただくので、それのみならず若干話も広げていただいて構いませんので、今後の松江市の教育の在り方全般と捉えたときに、みなさんが思っているご意見をいただければと思います。

もう1つは、松江市の教育大綱の中間見直しということを行わせていただきますので、みなさんから忌憚のない意見をいただきますことをお願いいたしまして、私の冒頭のご挨拶をさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○川上副教育長

上定市長、ありがとうございました。

本日は2部構成にて会議を進めてまいります。第1部では『ボタンねっと』をテーマに視察もしていただきながら、本市教育の課題や目標について共有を図ります。第2部では、教育大綱の中間見直しをテーマに現状の把握を行い、市長と教育委員会が連携して教育行政を進めていくための意見交換の場としたいと考えております。

なお、会議に先立ち、第1部の公開・非公開の取扱いについてご協議させていただきます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条第4項第6号並びに松江市総合教育会議運営要綱第4条但し書きの規定により、個人の秘密を保護する必要があると認

められる場合には、会議を非公開とすることが可能とされております。

第1部では、『ボタンねっと』の視察を予定しております。これは個人の秘密に関わる内容を含むため、非公開での開催としたいと考えております。つきましては、第1部を非公開とすることにつきまして、ご異議はございませんでしょうか。

……………異議なし……………

ご異議がございませんでしたので、第1部につきましては非公開にて開催させていただきます。

本日の出席者につきましては、配布しております出席者席次表をご覧いただければと存じます。

続いて、本日のスケジュールについてご案内申し上げます。はじめに、『ボタンねっと』を含めた松江市における不登校支援の取り組みについてご説明いたします。その後、オンライン学習支援『ボタンねっと』による授業の様子をご視察いただきます。視察後は、生徒指導推進室より説明を行い、引き続き意見交換の時間を設けさせていただく予定でございます。

(第一部：非公開)

○川上副教育長

それでは、第2部の市教育大綱の中間見直しに移ります。ここから公開会議とさせていただきます。第2部でも、事務局より現場の課題等について説明を受けた後、皆様からご意見を伺う時間を設けております。

それでは、教育総務課よりご説明をお願いいたします。

○加納総務課長

失礼いたします。教育総務課の加納でございます。

教育大綱の見直しについては、私のほうから説明をさせていただきたいと思っております。

本日は、見直しに向けての第1回目の会議となりますので、見直しに向けてのスケジュールですとか、あと、先般の委員の皆様にもご協力いただき作成いたしました令和6年度の施策の点検評価に基づきまして、本市の教育の課題と考えられるものについてまとめておりますので、それについてご説明させていただいた後に、皆様のご

意見を伺いたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、今日、資料のほうは、見直しに向けての A4 縦の資料と、あと、A4 横の資料編というものをお配りしております。あと、参考といたしまして、現在の教育大綱をお配りしておりますので、ご覧いただければと思います。

画面が映りましたら、そちらを見ていただきながらと思いますが、準備ができるまで資料のほうをご覧いただきながら進めたいと思います。

まず、A4 縦の資料の 2 ページをご覧いただきたいと思います。こちらのイメージ図のほうは、色々な場面で委員の皆様にもご覧いただいているものになりますけれども、市の教育大綱につきましては、基本理念を『DREAMS from MATSUE～ふるさと松江から、夢を実現し未来を切り拓く～』としておりまして、それを実現するための 4 つの基本方針を示しているところです。

次、3 ページをご覧ください。この教育大綱は、法律に基づきまして市長が策定することとなっております。松江市の目指すべき教育の方向性、それを実現するための方針、重点的な取り組みを示すものとして定めているところです。

次、4 ページのほうをご覧ください。現在の大綱は令和 4 年 3 月に改定をしたものとなっております。期間は令和 4 年度から 11 年度の 8 年間、総合計画と同じ期間となっております。このたび期間の半期が終了するということから、今年度末に見直しを行うものでございます。

次、5 ページのほうになりますけれども、この教育大綱を見直すときは、法律によって総合教育会議で協議をすることとなっております。

次、6 ページのところには改定のスケジュールを記載しております。本日の総合教育会議で教育大綱振り返り、また、見直しに向けての土台となる市教育の課題について意見交換をお願いしたいと考えております。

そして、10 月から 12 月にかけて、市長や教育委員の皆様と協議を踏まえまして素案を作成いたします。1 月から 2 月には、小中学校の校長会ですとか、市の PTA 連合会などの皆様へ素案をお示しいたしまして、ご意見をいただきまして、2 月の総合会議で改定案について協議をいただきまして、決定をしたいと考えております。

本日、意見交換をお願いしております市の教育の課題につきましては、先ほども触れましたけれども、点検評価に基づいてまとめております。

画面のほうが準備できましたので、ここからは資料編の 2 ページをご覧いただき

いと思います。

それでは、画面のほうをご覧くださいと思いますが、教育大綱では、1つの基本理念、4つの基本方針、16の推進施策を定めているところです。教育委員会では、この16の推進施策に基づきまして、令和6年度は63の個別事業について点検評価を行ったところです。

資料の右下のところ、ちょっと小さいですけれども、達成の状況については、63件のうち、「順調に推移」が41件、「概ね順調」が19件、「やや遅れている」というのが3件という結果になったところです。

6ページのほうをお願いします。こちらのほう、点検評価の結果を4つの基本方針ごとに見てみますと、基本方針1は、順調に推移はしておりますけれども、達成度は4つの基本方針の中で一番低くなっている状況でございます。

その中身をさらに詳しく見てみますと、茶色で囲っている部分になりますが、4つの推進施策、2番目、3番目、4番目、6番目のものが順調に推移に届いていないという状況です。

次ページからは、各施策を構成する個別の事業の達成状況になりますが、例えば2番の「確かな学力の育成」を事業ごとに見てみますと、やはり茶色で囲っております複数の事業について「順調に推移」というところに届いていないという状況です。

これは、今ご覧いただいているページの茶色で囲ってある部分の3番、4番、6番のそれぞれの事業について見てみましても、同じような状況となっております。

14ページをお願いします。よって、これら点検評価の結果から、確かな学力の育成など4つの推進施策について取り組みを強化していく必要があるというように考えているところです。

それでは、元の資料の7ページをお願いします。こちらからは、点検評価に基づきまして「順調に推移」というところに届いていないものですか、あと、順調に推移しているものの課題があるというように考えられるものを方針ごとに本市の教育の課題としてまとめているところです。

基本1の項目につきましては、5つの項目をお示ししています。ちょっと時間の都合もありまして、主だったものをご説明させていただきます。

まず、探究・キャリア教育につきましては、松江城授業などを通して多くの児童生徒が松江の良さを感じ取ってくれているというところではありますが、やはり引き続き

ふるさとにある教育資源を活用した探究の学習の充実が必要というように考えているところでは、

学力では、やはりまだ学校単位でばらつきがありますので、基礎学力の定着に向けて取り組んでいく必要があると考えております。

ICTの活用事業では、現在、ICT機器を効果的に活用した個別最適な学びと協同的な学びの実践について、やはりまだ学校間で差があるというところもありますので、活用事例の共有による底上げですとか、端末更新に伴うクラウド利用の理解や活用などを進めていきたいと考えております。

次のところでは、国際人材のところになりますけれども、こちらは女子高において女子高魅力化事業計画に基づく事業に取り組んでおりますけれども、やはり入学定員充足率などが伸び悩んでいるというところがありますので、みなさんご承知の通り、8年度からは定員の見直しと併せて、学科再編を行っていくこととしているところです。

次のページになりますが、こちらのほうは基本方針2の内容になります。こちらのほうは2つの項目を記載しております。

特別支援教育では、やはり相談内容が複雑化、また、支援のニーズも多様化しているということもありますので、スタッフの専門性の維持ですとか、人材確保が引き続き必要というように考えているところです。

次が方針の3になります。こちらのほうは5つの項目をお示ししております。最初の項目が児童クラブですけれども、児童クラブのほうは、やはりまだ待機児童が解消されていないというところがあります。これはやはり公設の児童クラブは校区制による受け入れを行っていますので、市全体の受け入れの定員に余裕があっても、どうしても校区によって待機児童が発生をしております。

市のほうは、民間の児童クラブへの運営補助などを行っておりますので、こういう民間の事業者の皆様のを借りながら、解消に向けた取り組みをしていく必要があるというように考えているところです。

それでは、次のページのところになりますが、2つ目の項目で、学校規模の適正化について記載をしております。こちらのほうは、やはり少子化の影響によりまして、本市でも適正規模に満たない小中学校の割合というのが多くなってきているところです。

これの再編については、地域ですとか保護者の皆様との合意形成や、どうしてもスクールバスなどの移動手段の確保などの課題がありますので、それらを整理しながら、最適な学校規模のあり方などについて検討を進める必要があるというように考えているところです。

次、最後、方針4のところになります。こちらは3つの項目を記載しております。

公民館活動のところでは、建築後35年以上経過する公民館が、今、市内で8館あるというところで、老朽化等も進んでおりますから、今後、財源は確保しながらになりますけれども、改修や移転などについて検討を進めていく必要があると思います。

それでは、最後のページをお願いします。大変ちょっと早口になりましたが、以上を点検評価報告書を基に、市の教育の課題であると考えられる点についてまとめております。

本日は、委員の皆様からも検討、または対応が必要と思われる政策ですとか、先ほどご説明した課題への対応についてご意見ですとか、ご提案をぜひいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○川上副教育長

それでは、ただいまの説明を踏まえまして、皆様方からご意見を頂戴したいと思います。この会、12時を終了時刻としております。すみません、司会進行がまずくて時間が随分押しておりますが、まず最初に上定市長にご発言いただいたあとは、フリートークとして進めたいと思っております。

事務局から提示されました課題に対するご意見、ご感想、あるいはご質問。さらには、ここにはないものとして新たに検討をすべきではないかという教育課題等ございましたら、そういうご提案など、ぜひお話しただけたらと思います。

それでは市長、よろしくお願いいたします。

○上定市長

私、何かこれとこれとこれが大切だということではなくて、ちょっと今、説明を聞いた中で気になったことで3点ほど挙げさせていただきます。

1つ目は、学力のお話で、県が『たつじんテスト』を導入しましたよね。それに呼応してというか、それだけでは足りないという認識のもとで、市として市独自のテス

ト、どちらかという旧来型の県がやっていたテストを導入して、『たつじんテスト』も含めてなのですけれども、どのように考察をしていくのかというのを当然学力の向上を考える教育大綱の見直しの中に織り込んでいかなければいけないので、そういった整理が必要であるというように思っております。

もう1つは、先ほどの皆美が丘女子高の再編の話。今、ちょっと項目としては未達ということで、やや遅れというのが気になっているところではあるのですが、今回、国際コミュニケーション科を再編する形にしたので、これは目標の立て方としても、今まで海外を重視してきたというところは、ちょっと私の理解では、学科名には出てきませんが、全体としては重視の傾向は当然堅持していくというところはあると思います。

ただ、どうしても科を統合して普通科だけにしてしまうことによって、浅く広くな感じになってしまうので、実際にそういった国際人材をどんどん育てていくという向きとは少し違うので、どの辺りまで目標の立て方、例えば海外との交流というのがどのぐらいのレベルで海外と交流する、1回外国に行けば良い、オンラインで何回か打ち合わせすれば良いのレベルで良いのかどうなのか、目標の設定などを今回の再編を踏まえてもう1回考え直す必要があるのではないかと思います。

もう1つは、やはり学校の統廃合を今後進めていく向きにどうしても、ここ10年単位ではならざるを得ないと思うので、その際に、若干ネガティブに言うと、どうしても小学校がなくなることによって、その地域が疲弊していくという地域コミュニティとの関係という面がありますし、一方で、ちょっとポジティブに無理やりも含めて捉えれば、義務教育学校化がしやすかったり、あるいは揖屋小学校で導入したようなラーニングコモンズみたいな、ちょっとインフラ的なファシリテータ的な必要なものというも整備するタイミングであったりというように、ピンチをチャンスに変えていくということも必要だと思うのですが、その際にインフラとして、先ほどのバスの話だったり、あるいはプールをどうするかみたいな話とか、今、米子でも民間の施設を使わないと、このお話だけでもあれなのですけれども、結局プールサイドも暑いので、甲羅干しをしようと思ったら火傷したみたいな話とか、夏も冬もなかなかプールがやりにくいというようなところがあると思うので、そういったところの整備とか、そういうのを併せて進めていかなければいけないなというように思ったところではあります。

すいません、とりあえずトピックスとして申し上げました。

○川上副教育長

ありがとうございました。

そのほか、みなさんいかがでしょうか。

塩川委員、お願いいたします。

○塩川委員

失礼します。松江市の教育大綱の見直しで、色々見直しが必要かなとは思いますが。先ほどの市長さんも色々観点というか、大事なところを言われましたけれども、見直しの観点として、私の中では、先ほどご説明があった点検評価報告書で目標に達していないところ、もちろんフォローをしていかなければいけないと思うのですが、その点検評価報告書からの切り口と、次期学習指導要領の色々キーワード的な切り口、その辺りのところを踏まえた松江市としての今後の動きについて網羅する必要があるのではないかなと思います。

もう1点は、教員の働き方改革についての切り口がたくさんまだあるとは思いますが。この3点についてはしっかり見直しが必要ではないかなと思います。

その見直しの中で、やはり松江市が今まで取り組んでいただいた強みはたくさんあると思います。弱みをフォローしていくというのももちろん大事なことだと思うのですが、強みをより伸ばすというか、その観点も必要かなと思っています。

個人的には、松江市の教育は保幼少の接続カリキュラムが既に何年か前に策定され、それが実践されつつあるということ、それから小中一貫教育が定着しているということ、それからエスコの存在、先ほど市長さんのほうからもありました女子高があるということ、これも大きな強みではないかなと思います。

そのほか、県もそうですけれども、ふるさと教育、図書館教育、学校司書の配置を含めまして、しっかり定着しているということ。それから、何よりも松江市独自の公民館のあり方について、学校と公民館、地域、それが一体になって様々な事業とか取組がなされている。これは非常に他市にはない大きな強みではないかと思います。その強みを上手くさらに充実をしていく中で、先ほどの点検評価報告書の4点の足りないところもありましたが、それもすべて少し上積みをしていけば網羅できるのではな

いかなという感じがしているところです。

○川上副教育長

ありがとうございました。

そのほか、みなさんいかがでしょうか。

原田委員、お願いいたします。

○原田委員

失礼します。原田です。

私、教育委員が2期目に入りまして、この中のことがちょっと分かってきたところなのですが、まずはじめに思ったのが、各学校とか各先生方、教職員の方の裁量で行うということがとても多いなということを感じました。もっと市内の学校が共通して行うことがあって、そのために教育委員会があるみたいな感覚で思っていたので、各学校で決めることだったりとか、先生方が自分で決めることがこんなにあって大変だなということをもっとここに入って思いました。

ただ、先生の足りない状況というのが続く中で、だいぶ進んではいるのですけれども、システム化していけるところはそのまま進めていくべきだと思いますし、また、教育委員会として示すべきところはあると思っていて、今までもやってきておられると思うのですが、それがどういったことなのか、その示す大枠がある中で、それぞれの地域の特性で変化するものはあっても、その辺りをもう少し明確化してはどうかというようには思います。

学習指導要領も改定があるみたいなのですが、やはり自由度が高すぎると負担も増すと思います。ただ、そうは言っても、学校や先生方のそれぞれのやり方というものもあると思うので、それが発揮できる余白というのがすごくあって、時間的にも、今それができないところが先生のフラストレーションでもあるのかなというように思うので、それを例えば共通して「ここはこうする」というように決めてしまっ、その残った時間で先生たちが自由にできる、考えられるところがあるというのが理想かなというようには思いました。

あと、子どもの学習に関してなのなのですが、主体的な学びをするというのをすごく進めているのですが、そのためにはやはりインプットも大事といたしますか、

今までのようなインプットがあって、それで、その上で今やっている様々な体験もあって、そこにまた芸術的な学びもあって、そういうのをいっぱいインプットした上でアウトプットしていく。急にアウトプットをいきなり求められてもなかなか出てこないと思いますし、そこの辺りはインプットしたものをどうやって出していったら良いのかというのを導いていくといえますか、ファシリテーターの役目をしっかりやっていくのが先生の役目なのかなというように思いました。

個人的には、好きなものをどんどん伸ばすというところが今言われていますけれども、保護者として、親として見ていると、好きなことというのは放っておいてもどんどんやるといいますか、それを止めることをしなければ良いというか、例えば好きなことに関しての話をしごく聞いてやるとか、あとは、それに付随した本も与えてやるとか、そういうことをやっていけば良いかなと思っていて、興味のないことでもやってみたら楽しかったとか、ちょっと大変だけど、やはり最後までやれたという達成感とか、そういう最後までやり切る力とか、ちょっと昭和的なところかもしれないですけども、やはりその部分も大事かなというように個人的には思っています。

すいません、ちょっと大綱のこととは関係ないかもしれませんが。

○川上副教育長

ありがとうございました。

金津委員、お願いいたします。

○金津委員

私もちょっと気になっているのが、学力向上と先生の働き方改革なのですけれども、学力向上に丸が付いていて、あと、先生の働き方改革についても二重丸が付いている。経過として色々進んでいますよということで私も捉えて、色々教育委員会でもご説明いただいているので、あくまで経過として進んでいると捉えていて、感覚的にはちょっと違うかなというように思っていて、やはり学力も全国平均との依然としての差というのがあったり、学習時間がなかなか増えないという課題がずっと、私が教育委員になったときからずっと続いていたりしますし、あと、先生の働き方改革についても、この間、報道でもありましたが、日本というのは依然として OECD で最長の働き方になっていると。

その中で、今後、先生の不足というのはどんどん加速していくのかなと思いますし、あと、今後、弊社とかでもそうなのですけれども、現実的に苦しくなっていくと思うのが、男性の育休というのが結構増えていくと思います。これもかなり色々人手という面で非常に厳しくなっていくのかなという面があって、そういう面でも相当にAIの利用だとか色々なことを考え得るのでしょうかけれども、生産性の向上というのが必要になるのではないかなというように感じています。

あと、もう1点、ちょっと最後に、せっかく市長も来ておられるので、この間、山陰中央新報の報道で気になった記事がありまして、修学旅行短縮の記事というのが出ていたのですけれども、今、やはり子どもの体験格差というのがすごく言われる中で、やはり個人的に修学旅行1泊2日と2泊3日というのは、子どもたちにとっては結構大きい違いではないかなというように感じていまして、出雲市とかほかの市ではそういう実態にはなっていないという報道が出ていたので、ぜひ松江市も何とかならないかなというように感じています。

○川上副教育長

ありがとうございました。

大谷委員、いかがでしょうか。

○大谷委員

失礼します。三角が付いたところを少し見ていくと、国際人材のところと、児童クラブのところと三角が付いていると思うのですけれども、国際人材について市長もお話しておられたのですけれども、女子高の話は出ているのですけれども、これは女子高だけの話ではないと思いますので、松江市全体として、今日の冒頭に市長さんがお話しされた松江の良さを子どもたちが学ぶ、それから、それに気付いてくれるという大切さと、それをどうやって発信していくかということもすごく大事だと思います。

私、前々から松江は国際観光都市とうたっている割には、国際的な発信がもう少しあっても良いのかなという気がとてもしているところがあって、その辺りのせっかくこの『ばけばけ』もあって、色々な形で関心を集めているところなので、子どもたちも松江のことを学んで、松江に対する気持ちが高まったところで、それを外に向けて、別に海外だけではないと思うのですけれども発信していく、そして自分たちの自信に

つながるといふようなところももう少し入れていっても良いのではないかなという気がしております。

学力のことについては、県の『たつじんテスト』も新しいですし、松江独自のテストも入れるというところで、恐らくそこは基礎学力のところとか、学ぶ特性のところを押さえていくところだと思うのですけれども、子どもたちを見ていると、やはり学ぶ楽しさをどうやって教員なり地域なり保護者がそこを高めていくところが大事かなというように感じていて、もう1つ、地域的にも今、県の高校の競争率が非常に下がっていて、誰でも入れる状態になってきている中で、女学生を見ていると、わざわざ無理したチャレンジはしない、でも高校に入れるというところが見え隠れするところがあって、やはりここに入れたら良いということではなくて、やりたいことがやれるところはどこなのだろうかとか、やりたいものが見つけられるような場所だったり、見つけられたら、それが学べる場所だったりというような環境づくりも大事になってくるのではないかなというようには思いました。

ちょっと離れますけれども、以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

教育長、最後にいかがでしょう。

○青木教育長

ICT活用事業のところで、活用する環境は整ったと思うのですけれども、今後はそれをどう生かしていくかということで、たまたま昨日、そういった活用事業を積極的に取り組んでおられる学校に、遅ればせながら、みなさんは去年見に行かれたと思うのですけれども、ちょっと違う学校に見に行きました。

非常に低学年から計画的に授業に取り組んでいて、デジタルも使うけれども紙も使うみたいなことです。生徒同士が分からないところを教え合ったり、高め合ったり、それを先生が上手く指導しているみたいな姿を見て、ちょっと感動したところなのですけれども、その学校の全国学力テストの結果とかも見ると上がっているのです。上手く利用しているということ。

多分、分からない子をそのままにしておかないというような雰囲気があったので、

何かそういうのをほかの学校にも広めたいなと思っているところです。

併せて、先生の公務もタブレットによって効率化を図っている。朝礼もしない。タブレットで情報共有するとか、そういうことをしているので、今後、先生の働き方改革も計画をつくって、またこの総合教育会議で図らないといけないというように国が言うておりますので、そこの辺りも改めて検討してまいりたいと思っております。

以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

だいぶ時間は迫っておりますが、市長、お願いいたします。

○上定市長

いくつか質問をいただいていたところがあるので、若干答えさせていただきまして、まず、金津委員からいただいた修学旅行の話です。これも先ほど原田委員からもいただいた、どこまで学校に委ね、どこまで教育委員会で方針として立てるのかということころは私も日々悩んでいるところというか、考えているところです。

地域性も特に松江の場合には地域が広くて伝統もあるので、それぞれによって大きく異なります。実際、学校の規模も相当違うので、画一的なものにはなり得ないのですけれども、あまりにも自由度があると、それはそれで、校長先生もそこに10年いれば別ですけれども、なかなか短い期間でキャッチアップして、自分の独自性を出して、しかもその地域のみなさんが納得いく形にするというのはなかなか難しいと思うので、ある程度そこは指針として持っていかなければいけないなというのがあります。

その中で、例えば修学旅行についても、今、理由としては2つ挙げていて、1つは、実際に日程を組もうと思ったときにオーバーツーリズムがあるので、京都に行こうと思ってもなかなか思うように動けない。京都市民の方もなかなか難しい。交通手段なども不便になっているみたいな、そういった話があったり、あとは実際にアンケートなども取っていますけれども、やはりコスト高の中で、どこまで保護者のみなさんが負担できるのかという観点も当然必要にはなってくるので、強制的にどうしても「2泊3日で何万円は出してください」というような形も難しいしとか、そこの辺りを地域性を重んじながらも、ある程度の指針については松江市として持っていかなければ

いけない部分の1つだというようには認識しているので、私も自分の経験を踏まえると、やはり修学旅行に行った思い出というのは、自分の中学校とか小学校でもすごく大きなトピックとして残っていますから、だから、何らかの学びを得るきっかけになっているのは間違いないと思いますので、それから、あとは授業時間などとのバランスの中で、どのような体験型のものを、色々なやり方があると思うので、単に修学旅行先に行くだけではなくて、最近、高校などだったら大学の視察に行ったりしますよね、オープンキャンパスとか。そういう絡みとか、そういったことも考えていかなければいけないというように思っております。

もう1つ、大谷委員に言っていただきました海外の話です。国際文化観光都市は京都と奈良と松江だけなので、ここは『ばけばけ』も含めてですけれども、海外とはほとんどんやっしていきたいと思っています。

私も、例えば来週インドに行くのですけれども、まさにすいません、大谷学長に色々とお世話になって、インドとの縁も持っていていたりもしますので、そこも例えばすみません、大学間の連携みたいな話にはいくのですけれども、なかなか中学のレベルまで落ちてきてはいないので、実際。

一方で、台湾とか中国は色々と話ができていまして、実際に皆美が丘が台湾の高校とやり取りをしたり、今、それに若干付随して、今年は松江南高校も台湾の台北市立大学というところが高校をつくるのですけれども、そことの関係とかができてきそうですし、中国は広州の第14中学という高校なのですけれども、そこはアメリカのIBリーグとかにたくさん進学するようなところなのですが、昔からの広州市との姉妹都市関係で、これも皆美が丘とはつながっています。ちょっとそれだけで良いのかという話はあるのですけれども、能動的に海外とのつながりは教育の面でも持っていきたいと思っていますし、来年の2月には、またアイルランドとフランスにも行ったりするのですけれども、そういった機会も教育の観点も念頭に置きながら、オンラインでつながるようなことも含めて種をまいていきたいというように思っております。

○川上副教育長

ありがとうございました。

そのほかいかがでしょうか。

……………発言なし……………

すいません、時間のないところで大変申し訳なかったですが、皆様方からは学力育成、女子高、国際人材の育成、学校の統廃合、働き方改革、教育委員会として示すべきラインなどなど、たくさんのトピックについてお話しいただきました。

または目標の立て方、あるいは考察の仕方、見直しの際の観点についても様々なご示唆をいただいたところです。

これらを生かして、今後見直しに取り組んでまいりたいと思います。活発なご意見をありがとうございました。これにて第2部を終わります。

予定しておりましたすべての議事が終了いたしました。本日はご多用のところ、長時間にわたり建設的かつ貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

これをもちまして、令和7年度第1回松江市総合教育会議を閉会いたします。今後とも松江市の教育行政の推進にご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。どうぞお気をつけてお帰り下さい。